



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 —

### 「知識の宝庫」

皆さんは本を読む習慣がありますか？私は昔はまったくというほど本を読まなかった。年に10冊いくかいかんくらいで、読むのはエッセイかノンフィクション。どちらかという文字が大きくて読みやすい本、笑。それが鍼灸を勉強しだしてからは、毎日本を読むようになった。

東洋医学や鍼灸治療に関する本がメインやけど、専門書は安くて五千元。高いものは数万円。一冊の本の中に詰め込まれた知識を考えるとこの値段は破格やと思う。著者の経験、それも数年とかではなくて十数年、数十年かけて得た知識が凝縮されとる。自分では見つけられん答えや、数年かけて得るべき内容が本には詰まるとる。直接その人に会えなくても考え方を知ることができるし、知識を分けてもらえる。やから最近では専門書の著休めに自叙伝もよく読む。小説なら感性が磨かれるし、想像力がアップする。

学生時代にもっと本を読んどけば良かった、といつも思う。愛南町の学生たちよ！本やぞー！本を読むんやぞー！得た知識はなくならん！知識は大きな財産やぞー！と、町内放送で叫びたい。

ちなみに東洋(古典)医学の良い本は古くなるほど値段が上がる。先日"この本、良さそう♪"って軽い気持ちで手にした本の値段見たら27万円やった。目ん玉が飛び出た！笑

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.117

## 「海底美術館」

「海のパイナップル」と呼ばれている食べ物をご存知だろうか。北国でよく食べられている「ホヤ」のことである。形がパイナップルに似ているので海のパイナップルと呼ばれている。もっとも愛南町では売られていないため、「ホヤ」を見たり食べたりしたことのない人も多いだろう。

ホヤは原始的な生き物で、袋に二つの穴が空いたような体をしている。片方の穴から海水と一緒にプランクトンを吸い込み、体の中でこしとって、もう一つの穴から海水だけを吐き出している。脳も神経系もない不思議な生き物だ。

あまり知られていないが、愛南町にも多くの種類のホヤが生息している。もっとも1cm



【ホヤの仲間】

に満たない小さなものが多く、食用には適さない。よく見ると、レースの編み物のようなだったり、ガラス細工のようなだったり、さまざまな形をしている。

現代アートが展示されている海底美術館をじっくりと鑑賞するのもダイビングの楽しみの一つである。

(撮影地：瀬ノ浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照<sup>ともてる</sup>